



いわき市立大野中学校

学校だより 第7号

令和 2年12月24日(木)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0246-33-2233

教育目標：自立と貢献 ～「問い」を発する生徒の育成～
育成を目指す資質・能力：人間関係形成 × 社会参画 × 自己実現

2学期を終えて

授業日数86日の2学期が終わりました。世界は依然として感染症の脅威にさらされ、事態収束の見通しは立っていません。大切なことは、様々な情報に振り回されて動揺したりせずに、確かな根拠に基づいて冷静に判断し、行動することだと思います。また、自分も他者も感染しない・させないように行動すること、コロナ災禍によって、辛い思い、苦しい思いをしている人たちがいることを忘れずに、自分ができることをしていくことだと思います。



2学期は、修学旅行や御城祭などの学校行事を通して、生徒たちの成長が見られたことは大きな成果の一つでした。他方では、「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒が52%にとどまり、教育活動の一層の改善が求められていることが分かりました。

その基本となるのが、日々の授業です。確かに中学校や高等学校の学習内容は、生きていく上で役に立つと思うことが少ないかもしれません。しかし、「すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる」と言われます。受験や就職という目的のためだけに勉強していると、大切なことを見失い、学校も辛くなるでしょう。よって、テストの点数を上げるために勉強するという発想から、その教科の世界の中で、だらだらと過ごしてみるという考え方に切り換えてみてはどうでしょうか。だらだらと過ごしているうちに、楽しくなるかもしれないし、ならないかもしれない。もっと勉強してみようと思うかもしれないし、思わないかもしれない。そうやって、教科の世界の中でだらだらとしているうちに、自分の進むべき方向も何となく分かってくるものです。そこで、本校においては、生徒たちがその教科の世界に浸る、その教科の本質に触れることのできる授業を提供できるように努めていきます。

また、総合的な学習の時間、生徒会活動や学校行事などでは、自分で問いを立て、自分の頭で考え追究していく学びを通して、未知や無知の事象にも対処できる資質・能力を育み、社会に還元することのできる人間になってほしいと考えています。

これからも学校は、開かれた考え方に基づいて自由に学び議論し、時には社会に先んじて、異なる価値観や新しい見方・考え方を追求していく場所、「賢い市民」を育てる場所でありたいと思います。したがって、「自分には、よいところがある」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と自信を持って答えられる生徒がもっとも増えることを重点目標として、今後の学校経営・運営を行っていきます。



掲揚旗の寄贈

11月、本校に掲揚旗（国旗、市旗、校旗）の寄贈がありました。寄贈者は、吉本染工所（吉本幸彦）様です。学校が古くなった校旗の新調を検討していることや、大野地区の学校の在り方について話し合いが進んでいることを吉本様を知り、本校に何か貢献できればとのお気持ちから、3種の掲揚旗を寄贈いただきました。先日吉本様には、感謝の気持ちと今後の目標を、生徒一人一人がしたためたものをお届けしました。吉本様には心より感謝申し上げます。



ICTサポーターの配置

生徒がパソコン（ICT）を活用した学習を進める際に、その支援にあたる目的で、ICTサポーターが11月より配置されました。勤務は月2回程度です。また、本校のパソコンもタブレット併用型に入れ替わりました。今後も市教委と連携してICT環境を整備し、ICTを効果的に活用した学びを進めていきます。



おでかけアリオス

11月26日（木）、「おでかけアリオス」事業を活用し、トランペットの演奏に親しむ機会を持ちました。当日は、プロの演奏を聴くことで、現実とは異なる世界に浸ることができました。次年度も、本事業を活用し、音楽や演劇などの芸術活動に触れることで、生徒の豊かな感性を育てていきたいと思えます。



私の行き方発見プログラム

12月4日（金）、総合的な学習の時間において、社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度について学ぶためのキャリア教育プログラム（私の行き方発見プログラム）を実施しました。講師には、このプログラムを提供していただいたパナソニック株式会社東北復興推進室の方をお招きしました。



各学年の授業では、「働くことの目的・意義」「仕事や社会で求められる能力」について考えてきました。また、学年の発達段階に応じて、意見の広がりや深まりが見られ、生徒の内面的成長が感じられました。さらには、生徒たちが普段は出会わないような大人から、豊かな経験知を伝えていただいたことに、このプログラムの意義を強く感じました。

生徒たちには機会を捉えて授業を振り返り、「私の行き方」を模索してほしいと思えます。



※ 「私の行き方」は、パナソニック株式会社の創業者である松下幸之助さんが生前使用した言葉です。

